



トキワサンザシ(バラ科)
Pyracantha coccinea

NUM 友の会ニューズレター

No. 57

2020年1月14日発行

名古屋大学博物館友の会

新しい年を迎えて

足立 守

2020年はどんな年になるのでしょうか？日本では真夏の東京でオリンピックが開催されることが決まっています。東京オリンピックという、私には1964年の日本初のオリンピックのことが頭に浮かんできます。“東洋の魔女”のバレーボール、マラソンのアベと円谷、重量挙げの三宅などなど。

東京オリンピックは10月中旬に行われましたが、その4ヶ月前の1964年6月16日にマグニチュード7.5の新潟地震が起こり、大きな被害がでました。当初、新潟地震は連日大きく報道されましたが、オリンピックとともに忘れられてしまった気がします。

関東大震災（マグニチュード7.9）は1923年9月1日に発生しましたが、東京ではそれ以来、関東大震災級の地震は起きていません。南関東の大地震については諸説ありますが、大きな地震を起こすエネルギーが蓄積していると考え人は少なくありません。しかし地震がいつどこで起きるかという予知は理論的にできないので、地震発生を想定して自分自身で身を守ることにしかできません。

次の巨大地震（南海トラフ地震）への備えが叫ばれる中、どんな防災グッズが役立つでしょうか？私の一押しは、いざという時にピーっと音を出して自分の存在を知らせることができる笛（ホイッスル）です。笛はかさばらず電池切れもないので、常時携帯するのが一番いいと思っています。

友の会会費の納入について

1月のニューズレターで振り込みを依頼し、4月のニューズレター発行の時に会員証を同封するため、会費納入の「払込票」を同封します。お近くの郵便局で手続きをよろしくお願いします。納付はできるかぎり1月～3月の間をお願いします。

写真サークル・春季写真展のお知らせ

丹慶 勝市

3月10日(火)～6月14日(日)

10:00～16:00／休館日：土・日・祝日

ただし、6/13(土)、14(日)は臨時開館

会場：野外観察園セミナーハウス2階

発足してから7年目を迎えた写真サークルは、今年初めての試みとして春季と秋季の2回に分けて写真展を開催することになりました。そのうち春季の写真展は上のように開きます。今回も多彩なテーマで日頃の研鑽の成果を問うべく個性あふれる力作を揃えて、ひとりでも多くの皆さんがお越しになるのをお待ちしております。

なお、3月14日(土)午前10時より写真展の会場で、友の会会員の皆さんを対象に「ギャラリートーク」を開催します。展示作品について撮影したサークル会員みずから解説をします。是非こちらの「ギャラリートーク」にもお越しください。

また、秋季の写真展は10月6日(火)～12月18日(金)に開催する予定です。詳しくは改めてお知らせしますが、秋季の写真展もどうかお楽しみに！



梅原誠人『春宴』（春季写真展出展作品）

「高木典雄写真等資料」について

島岡 眞

この資料はコケ研究で有名な故高木典雄先生の調査旅行と、6万点もの「高木コケ類コレクション」に関連した写真資料です。

高木コレクションについては2012年度の企画展で取り上げられたほか、2006年以降何度か博物館報告でそのリストが報告されています。このコレクションの意義や高木先生の人となりについては、報告をまとめられた西田先生の上記企画展の文章にお任せし、ここでは門外漢の個人的面から見たこの写真資料について書いてみようと思います。

私のこの資料との出会いは、博物館収蔵庫の一角にある高木未整理資料の中にあつた「奄美の旅」の見出しでした。故郷の往時の写真に興味を沸き、先生がそれらの写真にどのような注記を加えているのか知りたくなったのです。この整理箱の下には、沖縄やニューギニア、ヨーロッパなどの箱が続いていたのですが、これまで手掛けた文字資料整理の一環として試みようとして、西田先生に申し出た次第です。案の定、写真説明に出てくる植物名やコケ類の学名等不明なものも多数ありましたが、西田先生や標本担当職員のご協力で公開できることになりました。

高木典雄写真等資料目録

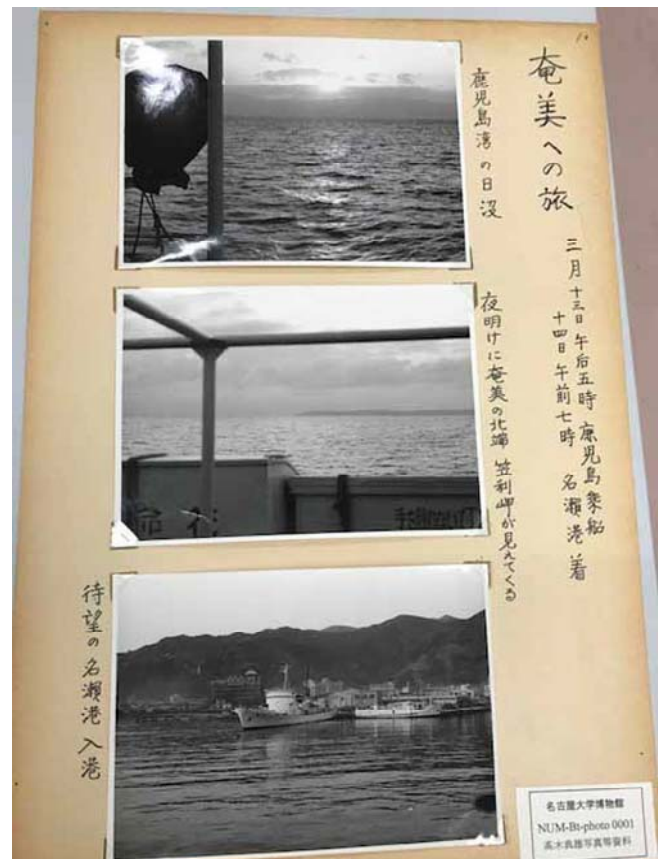
(www.num.nagoya.ac.jp/data/pdf/takaki_photo.pdf)

資料は台紙(39x25 cm)に1~7枚の写真、絵葉書等が貼付されたもので、480枚余の台紙と50点余の未整理写真や絵葉書等のファイルなどから成り立っています。主たるものは先生の調査・研究旅行の際の写真・絵葉書とその解説ですが、後半に主役のコケ類に関して2012年度企画展資料や様々なコケ関連資料を配しています。収録年代や地域は1967年の奄美大島から始まり沖縄、伊豆大島、東南アジア、ニューギニア、ヨーロッパ、1980年の台湾と、先生の長年の研究活動のごく一部に過ぎません。研究出発の地・熊本やナンジャモンジャゴケ発見の日本アルプス、あるいはヒマラヤのコケ調査などは未整理絵葉書のなかにわずかに見出すだけです。

この写真資料地域のうち、パプアニューギニアで採集のコケは国立科学博物館へ移管されています。その他地域のコケは6万点の中に埋もれ、現在は判然としませんが鋭意データベース化が進められ、その完成が待たれるところです。

これらの調査研究の内容は収蔵資料の『高木典雄教授著作集』(抜き刷り論文等の合綴、全8巻)でその概要が分かります(伊豆大島は不明)。故郷・奄美の報告を見ると、現地の協力者に高校時代の恩師・大野隼夫先生の名があり嬉しく拝見したものです。高木先生同様、大野先生も生涯を奄美の自然保護に尽力された方でした。

最後になりましたが、資料中のヨーロッパの部には各国植物園の絵葉書が多数含まれています。これらが博物館の野外観察園で活用されることを期待しながら雑文を終えます。



ボタニカルアートサークル会員募集

若干名の追加募集を行います。

講師は東海林富子先生。友の会の会員であること、他の植物画教室に参加していないことが応募条件です。2020年3月~2021年1月までの11回で、初回にサークル運営費(6500円)を集めます。

申し込みの詳細は別紙をご覧ください。2月25日(火)必着です。



新事務局員自己紹介

松本 晃子

初めまして。新事務局員の松本晃子です。2013年「本物？作り物？ロウ細工？教育標本ムラージュ」展のイラストを描かせていただいたことがきっかけで、その後も企画展や博物館講座の手伝いをさせていただきました。大好きな名大博物館で、これからは友の会の事務局員として活動することができ、とても光栄です。

展示の準備では、収蔵庫で資料を探すこともありました。収蔵庫には何が入っているのか分からない箱がたくさんあります。何が収められているのか、箱を空けてくずうずする気持ちを抑え、目当ての資料だけを展示室へ運びました。いつか全ての箱を開けてみたい・・・と願ってやみません。



博物館講座で思い出深いのは、「ミクロの探検隊」です。夏の暑い中、蚊に刺されながらも、皆で木の枝を揺すったり、石を裏返したりしながら虫を捕まえました。最初は気持ち悪がっていた子も、講座の終盤には写真を撮ったり、顕微鏡で観察したりと、夢中になっていました。

また、虫に詳しい子は初心者の子に教えてあげるなど、新たな虫先生誕生かも？と感じる場面もありました。学年、学校を越えて夢中に学べる博物館っていいなあと、改めて感じるひと時でした。



これからは事務局員として、友の会を盛り立てられるよう頑張りたいと思います。力不足ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

新しい「入会のご案内」のパンフレット



博物館事務室の榎原尚美さんの作品です。受付においてあります。ご活用ください。

シリーズ Artist Earth (8)

枕状溶岩 (pillow lava)

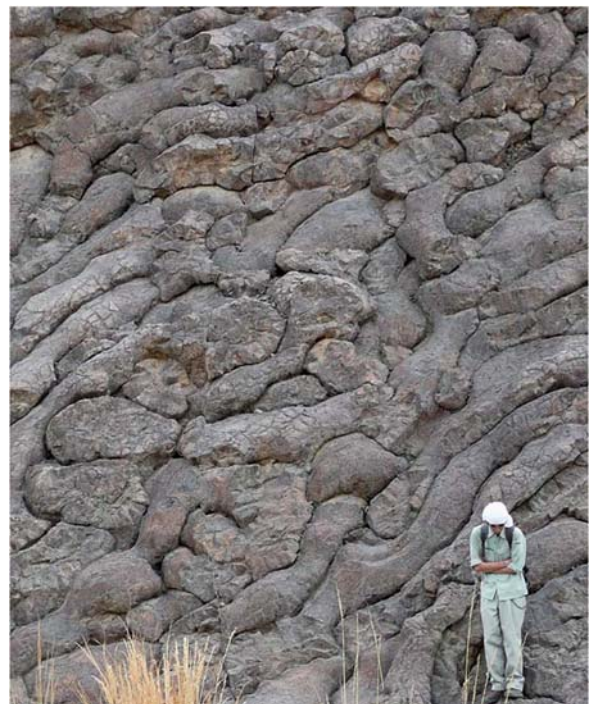
足立 守

写真はアラビア半島先端のオマーンで見られる典型的な枕状(まくらじょう)溶岩です。これだけきれいな枕状溶岩にはなかなかお目にかかれないので、新年号で紹介することにしました。

枕状溶岩は海底火山の活動によって形成されます。海底に噴出した溶岩のうち、海水に触れた部分は急冷して固結しますが、内部はまだドロドロに溶けています。周辺だけ固く中は柔らかいという点で、シュークリームに少し似ています。溶岩が流れていく時に、外側の硬くなった“殻”の一部が壊れて、割れ目から高温の溶岩が“ところてん”のように次々と押し出され、それが重なって枕状溶岩ができます。

オマーンの枕状溶岩は日本の枕状溶岩に比べて、形が西洋枕(pillow)のように細長く大きいのが特徴ですが、これが本来の枕状溶岩の形です。

枕状溶岩の英語 pillow lava の lava には、ラテン語で流れるという意味があります。トイレの英語に lavatory という単語がありますが、これは lava からきています。流れていくことが特徴の水洗便所のことで、昔の日本でよく使われていた“ポットン便所”には lavatory は使えない、という話を故中村一明先生の名講義の中で聞いたことがあります。



典型的な枕状溶岩 (人物は 1.7m)

(富山大学 大藤茂教授撮影 2007)

野外観察園 2020年 初春

吉野 奈津子

冬らしくなったといえどもコートもいらないうらい暖かい日があったりもして、暖冬を感じます。ムレスズメに続いてボケも季節外れに花を咲かせていますがやはり景色としては寂しいですね。今回は観察園の話ではありませんが近年気が付いた話題をご紹介します。

我が家の人々はパイナップルが好きで、人数も多いのでよく丸ごと購入します。カットしていて気が付いたこと、それは「種がある」です。

種子植物なので種があってもおかしくないのですが、私自身パイナップルそのものの花を見たこともなく、また挿し木で殖やすことが当然で、種はできないと思い込んでおりました。とっとうれしくてそれ以降種探しは毎度のこと。皮をそぎ落とす境目あたりに黒ゴマそっくりのものがあります（写真1矢印）。ない時もありますが、5個くらいから多い時は20個も採れたことがありました。パイナップルは150個ほどの花が集まっていて、うろこ状に見える一つ一つに花が咲きます。それぞれの花には子房や花托（かたく）といった器官がありますが、癒着して境目が分からなくなっています。私たちはたくさんの花の花托という部分の集まったところをいただいています。中心の芯は花がつく茎のような部分です。ちなみにイチゴも子房ではなく、大きくなった花托を食べています。

種を土にまいてみたところ、ミニチュアパイナップルの葉が出てきました。写真は2年ほど経過したものです。直径15cm（写真2）。こちらは上部を切り取って挿し芽したもので葉の幅1mくらいはあるでしょうか（写真3）。ひと夏でぐんと大きくなりました。何年計画になるのか分かりませんが花を咲かせ、ついでに実も楽しんでみたいものです。

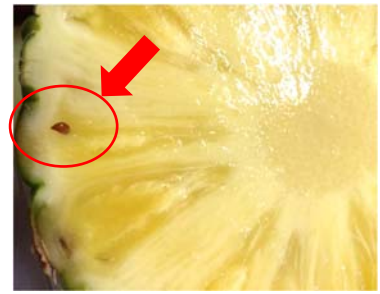


写真1：パイナップル（パイナップル科）
Ananas omosus



写真2：種から育てたパイナップル



写真3：挿し芽のパイナップル

連載予告「名大博物館よもやま」 野崎 ますみ

オリンピックイヤーの2020年4月に、博物館はちょうど20周年を迎えます。また、使用している古川ホールは、古川図書館として前回の東京オリンピックイヤーの1964年に完成しました。

これを機に4月より「名大博物館よもやま」を年2回連載します。第1回は、「古川図書館完成！！」ですので、お楽しみに！！

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付
電話：052-789-5767（博物館事務室） F A X：052-789-5896（博物館事務室）
Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口
ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan
年会費1000円（4/1～3/31） 10/1～3/31に入会した場合は500円（次年度は1000円）
家族会員制度あり（同居の家族1名まで）
<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会